

立憲民主党

岩手県総支部連合会



〒020-0022

盛岡市大通三丁目1番24号

第三菱和ビル5F

TEL.019-625-7852



X



Instagram

りっけん いわて
県連通信 No.23

2025.2.12号

#強くやさしい日本を
岩手からつくる

第2回常任幹事会開催

2月9日、県連会議室において、第2回常任幹事会が開催されました。佐々木順一代表からは、「昨年10月の総選挙では、自公政権を過半数割れに追い込むことができたが、政権交代まで至っていない。今後は党本部において、横沢たかのり氏の正式な公認内定を受け、7月の参議院選挙勝利に向けキックオフを宣言したい。」と挨拶。木戸口英司、横沢たかのり参議院議員からは、1月24日から始まった通常国会の情勢等の報告がありました。協議事項では、2区総支部のあり方と参議院選挙の取り組みについて協議が行われました。

「横沢たかのりを囲む新春交流会」開催



2月9日、盛岡市内のホテルにおいて、横沢たかのりを囲む新春交流会が300名の参加のもと盛會に開催されました。横沢たかのり参議院議員からは、「健常者から25歳にケガで障害者になり、その後、パラ選手、そして政治の道へ。参議院の約6年間は福祉をはじめ、農林水産業など現場の声を大事に取り組んできた。今後も『強くやさしい日本をつくる』ため、全身全霊で頑張る」と決意の挨拶がありました。来賓として、達増知事、八代英太元郵政大臣、伊藤連合岩手会長から激励の挨拶がありました。また、横沢たかのり参議院議員の52歳までの生涯を書いた「夢を叶える自分探し」の出版記念も合わせて行われました。

水田活用交付金の水張り要件の見直しへ

12月13日の参議院予算委員会の中で、横沢議員の「現場にそぐわないルールによって、人と農地がどんどん減っていくのは本末転倒。令和9年度見直しという話が出ているが、なるべく早い時期に政策を出すべき」に対し、農水大臣が「5年に1度の水張りルールは見直しを考えている。水活だけではなく水田政策全般について見直す中で、混乱を招かないように時間的余裕を持ちながら決めたい。」と今まで訴え続けた現場の声が国を動かす。（裏面に概要を記載）

水田政策の見直しの方向性について（概要）

水田政策を、以下の方向で令和9年度から根本的に見直す検討を本格的に開始。

- 1 水田を対象として支援する水活を、以下のとおり、作物ごとの生産性向上等への支援へと転換。

このため、令和9年度以降、「5年水張りの要件」は求めない。

※ 現行水活の令和7年・8年の対応として、連作障害を回避する取組を行った場合、水張りしなくても交付対象とする。

- 2 米については、国内外の需要拡大、大区画化、スマート技術の活用、品種改良等の生産性向上策等を強力に推進。

輸出を含めた米需要拡大を目指し、新市場開拓用米、米粉用米等を支援。

- 3 国産飼料の生産性向上を図るため、飼料用米中心の生産体系を見直し、青刈りとうもろこし等の生産振興を図る。

- 4 麦、大豆、飼料作物については、食料自給力向上の費用対効果を踏まえて、水田、畑に関わらず、生産性向上に取り組む者の支援へ見直すべく検討。

- 5 有機や減農薬・減肥料等について支援（主食用米も対象）。

- 6 農業者が急減する中で、地域計画の実現に向け、担い手が生産性の向上を伴いながらより多くの離農農地の引き受けを進めていけるよう、農地の集約化等への支援制度について、既存制度を見直し、強化。

- 7 産地交付金について、現場の実態を調査・検証した上で、水田・畑に関わらず、中山間地域等の条件不利地域も含め、地域の事情に応じた産地形成が促進される仕組みとする見直しを検討。

- 8 中山間地域等直接支払について、条件不利の実態に配慮し、支援を拡大。多面的機能支払について、活動組織の体制を強化。

- 9 予算は、現行の水活の見直しや見直しに伴う既存施策の再編により得られた財源を活用。このように、構造転換に必要な予算をしっかりと確保していく。